

消防・何でも雑学

防火運動は、明治時代後期から、「火の用心」のビラを配ったりして、住民に警火心を喚起していたとされていますが、大正十五年、全国消防組合組頭大会で、全国一斉に「防火デー」を設けようと提案され、各地で防火運動を進めるところが現れました。

防火運動のルーツ

全国統一の防火運動のきっかけとなったのは、昭和二年に丹後北西部を襲ったマグニチュード七・五の地震による大火です。その三年後に近畿地方で第一回の「防火運動」が実施されました。この運動に刺激され、地方別に防火運動が始められました。昭和二十年GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の指示により、一週間行われたのが、最初の全国一斉の火災予防運動でした。

自治体消防が発足した昭和二十四年からは、春、秋の二回に分けて行うようになり、

平成二年から、春は三月一日から、秋は一一九番にちなんで十一月九日からの各一週間を「全国火災予防運動」として実施されるようになりました。

車両火災予防運動

昭和二十六年に、横浜で死者一〇五人を出した列車事故があり、交通機関の火災の恐ろしさから、春の火災予防運動の中に含めて実施されるようになりました。



火災予防運動期間中に掲示される防火ポスター

山火事予防運動

山火事予防運動は、当時の林野庁と自治省消防庁がそれぞれ独自に実施していたものを昭和四十四年から、春の火災予防に併せて実施しています。

県消防学校初任科生 日頃の訓練成果を披露

九月三十日、鈴鹿市の三重県消防学校において、消防職員初任科第四十三期教育の総合査閲訓練が県防災危機管理関係者、県消防協会長、県下消防本部消防長、また、入校生の家族などが見守る中、教官の指導

のもと、盛大に行われました。



通常点検



一斉放水

初任科生(県下十三消防本部で採用された消防士九十二名うち女性三名)は、去る四月七日に入校以来、日夜、市民の暮らしを守るため、安全・確実・迅速をモットーに体力、精神力はもちろんのこと、消防職員としての基礎知識や機器の取扱訓練、消防活動訓練、救助技術訓練などの厳しい訓練を行ってきました。

訓練は、通常点検を皮切りに、部隊訓練、機械器具点検、交通救助訓練、救助基本訓練、ロープ結索訓練、火災防ぎよ訓練、一斉放水という順序で行われ、日頃の成果を遺憾なく発揮していました。

入校時と比べ格段に成長し、市民に信頼される消防士として真剣に取り組む姿が、初任科生の表情からうかがえました。

津消防綱引チーム 全国消防綱引大会で入賞

十月十七日、大阪市中央体育館において、第一回全国消防綱引大会が開催され、北は岩手県、南は沖縄県まで、総勢三十八チームが熱い戦いを繰り広げました。我が津消防チームも友好と親睦を図るために出場しました。

日頃から体力錬成で体を鍛え、力自慢の若いチームから全国大会で優勝経験のある最強チームまでが出場しての大会でありましたが、同じ職業のファイアーマンということで、会場では緊張感のある中で、多くの消防本部の職員と交流を図りながらの競技となりました。その結果三位入賞を果たしましたが、選手たちは、「次は全国優勝を目指して頑張ります。」と意気込んでいました。

三重県 津市消防本部 E-22 津消防



強豪と対戦する戦士たち